

第24回・令和3年度 全視連功労者 功績概要

氏名・年齢・通算経歴年		功績概要
1	青森県 柳澤 良知 やなぎさわ よしとも	昭和60年に小泊村教育委員会に奉職。村史の編集や村の寺院、巨木、祭り等の文化財に関する映像をビデオやDVDに記録し、視聴覚教材の製作・活用に取り組んだ。また、平成8年から平成14年まで、小説「津軽」の像記念館館長を務め、自ら撮影、編集した太宰治に関する写真、動画、音声等を館内展示に活用した。さらに、平成17年から平成31年まで、生涯学習小泊北光寿大学学長を務め、郷土の歴史や文化を学ぶ講座の講師として、多年にわたり様々な視聴覚機器、自らが製作した視聴覚教材等を活用するなど、地域住民の生涯学習を支援し続けるとともに、視聴覚教育・社会教育の振興に大きな貢献を果たしてきた。
2	山形県 青柳 フチ子 あおやぎ ふちこ	昭和36年に村山市役所に奉職。平成12年戸沢地区公民館社会教育委員、同14年村山市社会教育委員、同18年村山市戸沢地区公民館長、同26年村山市立図書館戸沢分室おしろやま図書室サポーター(現「おはなし会おしろやま」)代表となり今日に至っている。「おはなし会おしろやま」の代表として、児童生徒が本や紙しばいに興味をもてるよう尽力し、地域素材を題材とした自作紙しばいを入念な調査と深い見識に基づき制作し、県内のみならず全国でも表彰を受けるなど高い評価を得ている。また、制作した紙しばいを地域の小学校で披露するなどし、児童生徒の地域文化の理解及び郷土愛の育成に貢献している。
3	茨城県 原田 英一郎 はらだ えいいちろう	平成13年にアマチュアのビデオグループ「ひたちビデオサロン」に入会、同25年から実行委員として運営に参加し現在に至る。同15年から日立市視聴覚センターの視聴覚教育推進委員会に参加、地域自作視聴覚教材を制作。その他「まなびピアいばらき2006」「赤羽緑地を守る会」などでの記録映像の撮影を行う。また、地域の文化活動のイベントや祭事の記録なども多く手掛けた。これらの作品は地元ケーブルテレビ局への番組提供にも活用されている。以上のように、同人の映像制作活動は、茨城県および日立市に多くの貴重な映像記録を残し、地域に根ざした視聴覚・情報教育振興における功績は大きい。
4	岐阜県 岩田 謙一 いわた けんいち	昭和51年に16ミリ映写技術証を取得、関市社会教育視聴覚協議会に入会。同会会計を同60年からの5年間、同会監事を平12年から5年間、同会書記を同17年から2年間、同会副会長を同19年～29年までの10年間務め、同29年より同会会長となり、現在に至る。この間、地域の子ども会などにおいて16ミリ映写会の開催や、地域の行事などのビデオ撮影を行い、関市社会教育活動の発展に貢献した。また、同31年より岐阜県社会教育視聴覚連絡協議会の副会長となり、県の視聴覚作品コンクールや、生涯学習視聴覚フォーラムの運営に携わり、県の視聴覚教育の推進に貢献した。
5	愛知県 森下 一義 もりした かずよし	昭和56年に公立中学校に奉職。35年間の教職の中で一貫して視聴覚・情報教育の研究・実践を行ってきた。平成6年に放送教育研究会全国大会総合事務局運営部員、同9年に愛知県視聴覚教育研究協議会事務局員、同15年に愛知県視聴覚教育研究協議会事務局次長、同24年に豊橋市小中学校教育情報協会運営委員長、令和2年に豊橋市情報嘱託員となり今日に至る。豊橋市教育会館で6年間に渡りライブラリー業務などを担当、現在では、同館の情報嘱託員として、ICTに関するさまざまな問い合わせに親身になって対応し、同市の視聴覚教育を支えている。愛知県における視聴覚教育を牽引し、残した成果は多大である。
6	北九州市 中原 育也 なかはら いくや	平成19年に北九州市立視聴覚センター主催の16ミリ映写機操作技術講習会を受講し、資格認定を得るとともに「北九州市A V Eの会」に入会。以来現在まで14年間にわたり、幼児・児童を対象に16ミリ映写会を上映したり、同会のメンバーとしてボランティアで幼稚園や公民館などの公共施設での上映や、時には市外の図書館や歴史資料館からも上映依頼も受け上映活動を実施している。上映する内容は、歴史、平和、人権啓発、道徳、防災、いじめ、家庭生活などから選定。以上の通り、同人の視聴覚教育の推進や青少年の健全育成に果たした役割は大きく、同市の社会教育の発展と地域の活性化に役立っている。